

目的 前回、中年期男女の健康・食生活・意識について予備調査を報告したが、実態の把握できなかった部分について再度検討し、本調査を実施した。生活環境・経済状態そして家族関係等と現在の心身の健康状態や食生活との関連を明らかにすると同時に、生活や将来への考え方・生活意識・充実感がそれらにどう関与しているかを摸索した。

方法 対象は山間(A)・海浜(B)・都市(C)の40～59歳の男265名・女241名計506名とした。そのうち187組は夫婦である。時期は昭和59年12月初旬。方法は所定のアンケート調査票を作成し、地区衛生指導員・教師・学生等の協力により配布・回収した。項目は、①日常生活 ②健康状態 ③食生活 ④生活意識等について設問した。

結果 (1)地域の特性 ①生活環境：Aは農業兼業が多く60歳代まで働きたい者が半数を占めている。Bは漁・農業の重い労働生活者が3割で80歳代まで仕事を続けたいと答えている者もみられる。Cは常用勤労者で、仕事の内容は神経を使うことが多く座作業が高率で60歳代まで働きたいと答えている。②健康状態：A、Bともに不定愁訴項目の出現率が高く、運動する者は2割である。Cは不定愁訴項目が少なく運動する者が多い。③食生活：3地域とも食事に気をつけない者が半数で、食事量はA、Cは腹八分目、Bは満腹まで食べる者が他に比べて多い。④生活意識：日頃大切にしている項目としては家族・健康・仕事をあげ、充実感の仕事・家族団欒・休養と答えている。心的状態はCが他地域に比べて将来への希望をもつ者の割合が低い。(2)夫婦間の相違 生活環境・食生活等同条件下にある男女は、各項目とも同様の傾向にあるが、充実感・心的状態等について夫婦間の相違がみられた。